

研究タイトル：

ブータンにおける保健体育科教育に関する研究



氏名：	吉積 侑莉／YOSHIZUMI Yuri	E-mail：	yoshizumi.yur@oshima-k.ac.jp
職名：	助教	学位：	修士(教育学)
所属学会・協会：	国際開発学会，日本運動・スポーツ科学学会，日本体操学会		
キーワード：	スポーツ国際開発学，ブータン，体育科教育学，国際教育協力		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを通じた開発 ・国際教育協力 ・徒手体操 		

研究内容： ブータンにおける保健体育科教育に関する研究

●ブータン初等教育における保健体育科教育に関する研究—授業実践をめぐる関係者の認識—

ブータンにおける保健体育科教育は 2000 年から開始され、現在までに様々な政策や取り組みが実施されてきました。しかし、青年海外協力隊の活動を通して、保健体育科教育を実践する初等教員、保健体育科教育をサポートする学校スポーツ指導員、教育省の担当職員、地方教育行政機関の職員等々の関係者の保健体育科教育に対する認識には大きな差があると感じました。また、初等教員の中にも、研修会で教官を任されるほど積極的に保健体育科教育を児童・生徒に指導しようとする教員がいる一方で、指導方法がわからず授業を実施しない教員や、そもそも保健体育科教育など必要ないと考える教員がいることもわかってきました。ブータンの初等教員や学校管理職、中央・地方の教育行政官は保健体育科教育に対してどのような認識をもっているのか。パロ教育大学での教員養成や、2017 年から実施されている教員研修において保健体育科教育はどのように教え、学ばれているのか。このような疑問から、ブータンの保健体育科教育の授業実践に対する認識の分析を通じて、同国における保健体育科教育の課題を分析しています。

●ブータンにおける保健体育科教員のアイデンティティの形成過程とその影響要因

1968 年にブータン初の教員養成校である国立教育大学がサムツェに、その後、1975 年に国内2校目となる教員養成校がパロに設置されました。国内では、ブータン人教員を養成するため、教員養成課程の向上・充実に向けた取り組みがなされてきました。しかし、同国における保健体育科は 2000 年に開始されたばかりであり、教員養成についても一部を試行しながら微調整の議論が続いている状況です。また、現職教員の多くは保健体育科教育の受講経験がありません。そのような中で、保健体育科指導法を担う教員のアイデンティティがどのように形成されるに至ったか、またその過程でどのような経験が伴っているのかについて研究しています。



運動会で綱引きをするブータンの子どもたち

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	